

～新しい形で故郷を体験してみて～

国際交流員 ベン・ヘイドック

今年のコンコード派遣研修で旅立つ日に、一瞬緊張していました。なぜならば、前の訪問団と違って、今回英語が話せる人やアメリカに行ったことがある人があまりいなく、私が通訳と案内の役目で頼られると言われたからです。しかし、函館空港のセキュリティーを通った時から、だんだん安心してきました。皆はもう自然に一つのチームとして円滑に動いていたような気がして、「すごいな」と思いました。

アメリカに着いてからちょっと予想外な問題が起きました。訪問団の一員は子供の時にアメリカのグアムに行ったことがあって、その旅でいつグアムを出たのか記録されていなかったようでした。それで入国審査官は彼がグアムに行った時のビザを越えて滞在したと疑っていました。その時ちょうどアメリカの政府は議員の予算についての争いで閉鎖されていたので審査官の人数は普通より少なく、2時間以上待たなければ

なりませんでした。審査官の別室に呼ばれ、通訳し、私たちの訪問団のことを説明し、やっと何とか彼の疑いを晴らすことができました。結局、深刻な問題にならなくてよかったけれど、その経験は皆にちょっとまずい第一印象を与えたので、「アメリカの入国過程がこんなに厳しくなければいいのに」と思いました。

ボストン空港を出てから、予定は順調に進みました。中高生は CCHS でコンコード



函館空港での出発式

のおいしいピザを食べて、ホストファミリーに迎えに来てもらいました。私はその次の日から CCHS で中高生をサポートし、放課後は皆と一緒にコンコードの観光地や面白い所へ案内してもらいました。私はコンコードの出身なので、名所などは知っていましたが、「オーチャードハウス」というルイーザ・メイ・オルコットが住んでいた家などではさらに勉強になりました！

金曜日には中高生達と一緒に CCHS のラジオ放送局とテレビスタジオへ案内してもらいました。テレビスタジオでは、CCHS に留学している他の生徒達と文化交流番組を録画しました。イタリアや中国など色々な出身国の生徒がいたのでとても面白かったです。七飯の生徒達は掃除当番など学校の習慣を説明し、番組の最後には母国語で「さよう



テレビ局にて

なら」を皆で言いました。コンコードに滞在中、私は実家に泊まりましたが、久しぶりの実家はとても居心地がよかったです。そして、親と一緒に夕食が食べられたのは有り難かったです。

夜のイベントもとても楽しかったです。木曜日の夜にトム・カーティンさんの家でパーティーがありました。訪問団の大人とコンコードの人たちと一緒にマサチューセッツ州の多彩な地ビールの試飲をし、訪問団の二人のおかげで函館のイカ踊りをこっそり下見することができました！さらには、「やすきぶし」という踊りも教えてもらいました！土曜日の夜に CCHS のピザパーティーがあり、大勢で本番のイカ踊りを踊りました。

月曜日と火曜日にはケンブリッジとボストンの観光をしました。火曜日のボストン港クルーズとダックツアーとフェンウェイパークを見に行ったのは特に面白かったと思います。クルーズとダックツアーで色々な地点からボストンが見られるので、都市を体験するのに最高だと思います。フェンウェイパークに行った時、レッドソックスはロードゲームで遠征中だったこともあり、あまりにぎやかではありませんでしたが、将来の訪問団がフェンウェイパークで試合を観戦できたらいいなと思います。

今年のコンコード訪問はとてもよかったです。成田／ボストンの直行便で行ったので、とても楽な旅になりました。これからの訪問団も直行便で行ければいいなと思います。観光するのは面白いけれど、このような訪問で一番価値があるのはやはり、ホームステイをすることと向こうの人たちと直接会えることだと思います。そうする時間がたくさんあってとてもよかったです。今年の訪問でまたコンコードと七飯の関係は近くなりました。参加させていただけたことに大変感謝しています。



トムさんの家でイカ踊り



実家のリビングにて